

砂金採取跡

(さきんさいしゅあと)



【所在】

鷹栖町 24 線 18 号

【指定年度】

昭和 5 4 年

【標柱建立】

平成 4 年

夢見た千金

北星川（イブンベウシ川～オサラッペ川に注ぐ）上流に砂金が出るということが判ったのは、大正の初めころかと思う。誰からとなく噂になり、山師な男たちが集まってきた、川底を掘り始めた。佐々木茂の家の前付近は、砂金の量が最も多く、北側の丘の地下には 200m 余りの坑道が幾条も掘られていた。

また、近くの田圃の下の土を洗っても砂金が採取出来ると言い、佐々木のばあちゃんも庭近くの水田を掘って砂金を集めたと言っていた。また、佐々木次郎の父銀次郎は一時、韓国人を雇って砂金を採取したと言っている。戦後は、韓国人も引き上げ、筒井音吉、柏原義一、鳥山清吾などが採取しており、「出面賃にはなるよ」と言っていたが、昭和 25 年頃には終止符が打たれた。

ここの砂金は、白金の含有が多くて値段も良かったという。

【砂金掘り】

カッチャとユリイタとネコという幅 50 cm、長さ 80 cm ほどの稲わらで、鷹の羽型に固く編んだマット様のものをもって砂金の含有地を選び、樋かけ・流し掘りなどの方法で砂を流し、ネコに沈澱した砂金を集め、さらにユリイタで水を利用して金塊だけを選び分けてとった。